

日本における花き栽培の現状と類型区分

寺 田 稔*

1 はじめに

日本の花き栽培は、昭和10年代の初期に産地が形成され、戦後の経済成長と国民所得の向上の中で著しい発展をとげ大型の産地が形成された。その後、日本の花き栽培は、石油危機による経済活動の停滞と生産活動の低迷をのりこえて順調に拡大をつづけ、現在では47都道府県のすべてで花きの商業的栽培と出荷が行なわれている。

わが国の花きの栽培に関する研究は、1960年代から活発になり今日まで多くの研究成果が発表されている。しかし、その多くは、個別地域の実態研究で花き栽培について全国規模で考察した研究はほとんどない。今後、花き栽培に関する研究を進展させていくためには、従来からの個別地域の研究をつみかさねると同時に、個別地域の日本における位置づけや体系化、さらにその成果の普遍化が必要であろう。そのためには、全国規模での花き栽培に関する研究が不可欠であり、それによって個別地域の位置づけや体系化が可能と考えられる。

そこで本研究では、日本における花き栽培の現状を都道府県別に分析しながら花き栽培の地域特性の検討と花き栽培の類型区分を試み、さらに類型区分と経営構造との関係について考察した。

分析にあたっては、農林水産省経済局統計情報部編集の「平成4年産花き生産出荷統計」と財団法人日本花普及センター編集・発行の「'94フラワーデータブック」の資料を利用した。

2 花き栽培の推移と現状

(1)栽培農家数・栽培面積・生産額の推移

第1図は、日本における花き¹⁾の栽培農家数・栽培面積・生産額²⁾の推移を示したものである。栽培農家数は、140,196戸(平成4年)で昭和45年から平成4年までの22年間で約1.1倍に増加した。5年

間ごとの栽培農家数の推移は、昭和45年から昭和50年までの5年間で約1.2倍(約23,600戸)の大幅な増加、昭和50年から昭和55年までの5年間で約15,700戸の減少であった。したがって、栽培農家数は、昭和45年から昭和55年までの10年間に大きく変動し、昭和55年以降は緩やかな増加傾向にある。

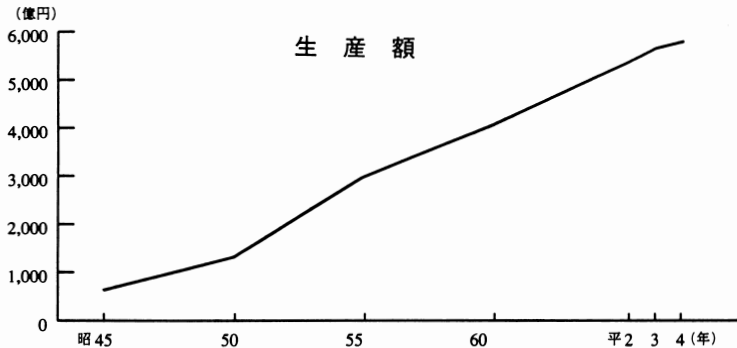
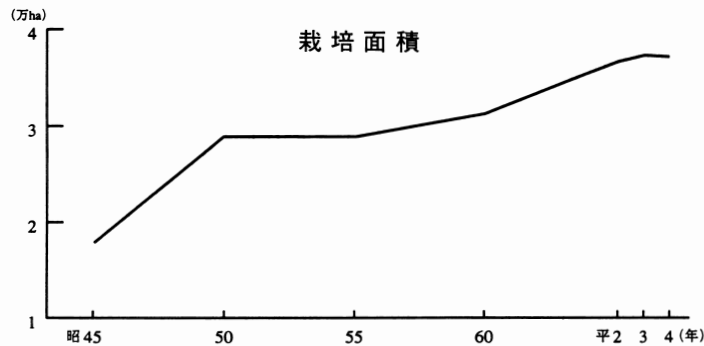
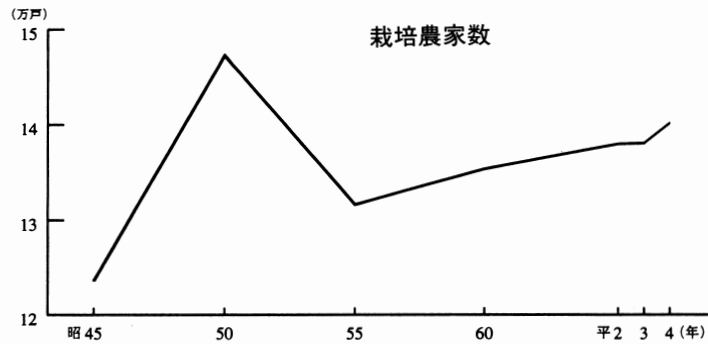
栽培面積は、36,905 ha(平成4年)で昭和45年から平成4年までの22年間で約2.1倍に拡大した。5年間ごとの栽培面積の推移は、昭和45年から昭和50年までの5年間で約1.6倍の増加、昭和60年から平成2年までの5年間で約1.2倍の増加で、この2期間に栽培面積が大きく拡大した。この2期間での栽培面積の拡大は、前者が緑化ブームや減反政策による拡大、後者がバブル景気の進展により花きの消費が増大したことによる拡大と考えられる。栽培面積は、大きく拡大した上述の2期間以外、微増傾向にあったが、平成3年から平成4年にかけて141 ha減少した。この減少は、バブル景気以降の景気低迷による消費の減少が大きな理由と考えられる。

生産額は、5,797億円(平成4年)で昭和45年から平成4年までの22年間で約9.6倍に大きく増加した。5年間ごとの生産額の推移は、昭和45年から昭和50年までの5年間と昭和50年から昭和55年までの5年間で2倍以上に大きく増大した。しかし、平成2年以降、生産額はその伸びを大きく鈍化させている。

(2)都道府県別の栽培農家数・栽培面積・生産額

第1表は、都道府県別に栽培農家数・栽培面積・生産額をまとめたものである。栽培農家数が多い上位5県は、千葉県(11,284戸)、愛知県(9,352戸)、長野県(9,109戸)、静岡県(7,565戸)、埼玉県(6,974戸)である。第2図は、都道府県別に花き栽培農家数の分布を示したものである。この図

* 北海学園大学教養部



第1図 花きの栽培農家数・栽培面積・生産額の推移

によると、栽培農家数は、関東・東海・九州地方で多く、東北・北陸・中国・四国地方で少ない傾向がみられる。

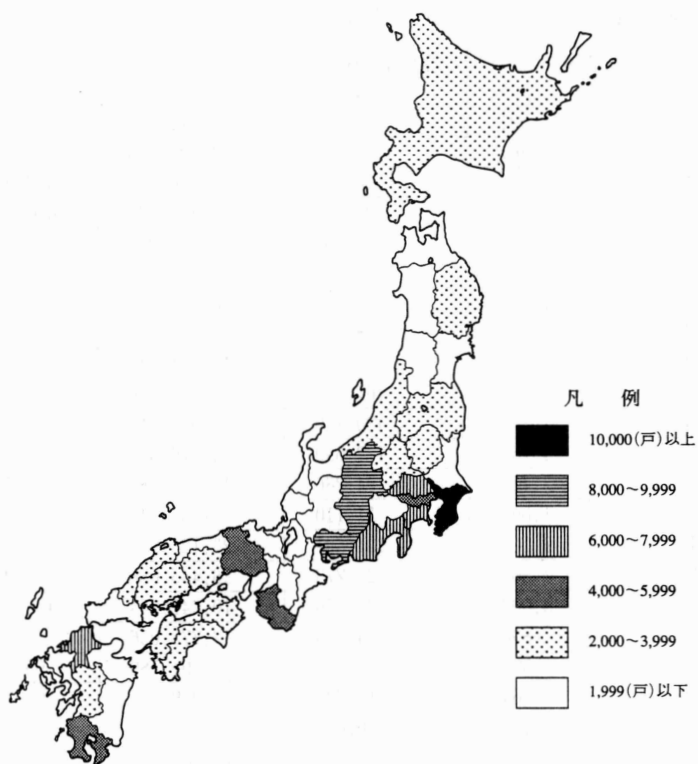
栽培面積が広い上位5都県は、千葉県(420,140a)、福岡県(279,162a)、愛知県(245,400a)、鹿児島県(204,860a)、東京都(172,699a)である。第3図は、都道府県別に花き栽培面積の分布を示したものである。この図によると、栽培面積は、関東・東海・九州地方で広く、東北・北陸・中国・四国地方で狭い傾向がみられる。

生産額が大きい上位5県は、愛知県(74,340百万円)、千葉県(71,611百万円)、福岡県(51,145百万円)、静岡県(26,436百万円)、埼玉県(25,191百万円)である。第4図は、都道府県別に花き生産額の分布を示したものである。この図によると、生産額は、関東・東海・九州地方で大きく、東北・北陸・中国・四国地方で小さい傾向がみられる。

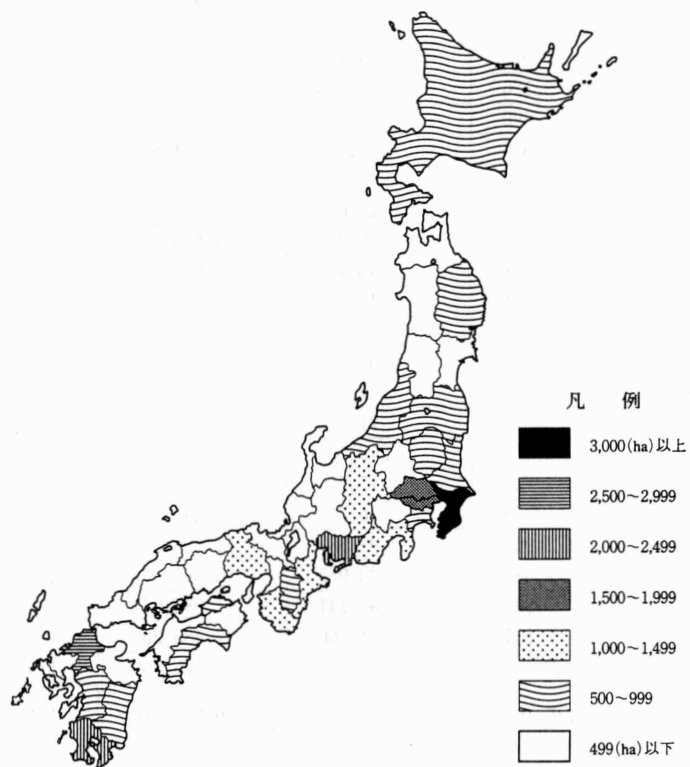
以上の結果、日本における花きの生産活動は、関東・東海・九州地方で活発であると概観することができる。

第1表 都道府県別の栽培農家数・栽培面積・生産額（平成4年）

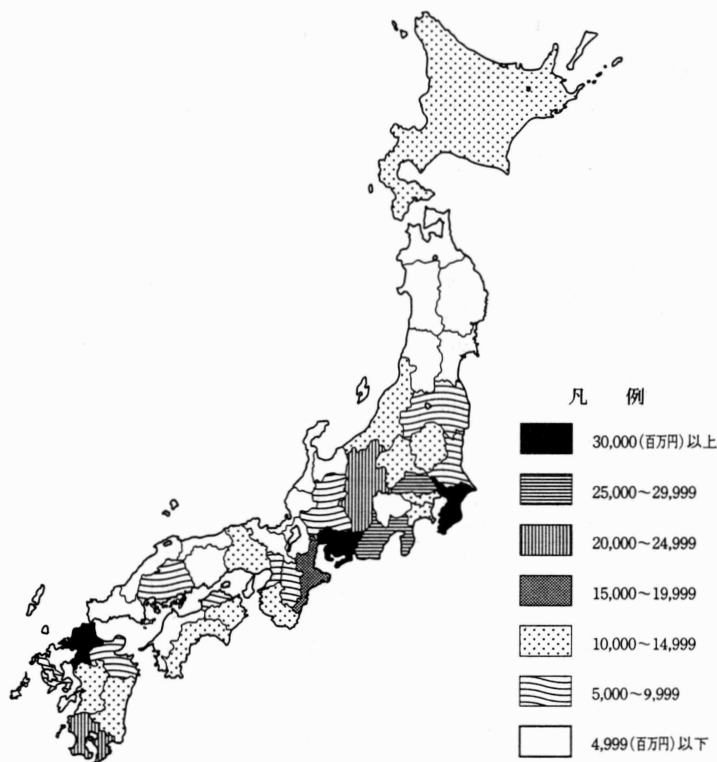
	都道府県	栽培農家数A(戸)	栽培面積B(a)	生産額C(千円)	C/B	B/A
1	北海道	2,999	74,820	10,767,692	143.9	24.9
2	青森	1,091	17,264	2,010,113	116.4	15.8
3	岩手	2,861	56,832	4,000,119	70.4	19.9
4	宮城	1,667	30,642	4,016,994	131.1	18.4
5	秋田	1,300	22,092	2,422,966	109.7	17.0
6	山形	1,339	26,765	3,326,955	124.3	20.0
7	福島	2,907	74,427	5,912,719	79.4	25.6
8	茨城	1,542	76,495	8,526,288	111.5	49.6
9	栃木	2,462	58,770	12,615,756	214.7	23.9
10	群馬	1,978	47,322	10,881,747	230.0	23.9
11	埼玉	6,974	161,570	25,191,466	155.9	23.2
12	千葉	11,284	420,140	71,610,615	170.4	37.2
13	東京	4,165	172,699	13,676,660	79.2	41.5
14	神奈川	3,421	94,286	12,556,483	133.2	27.6
15	山梨	1,005	11,110	3,055,247	275.0	11.1
16	長野	9,109	131,697	23,121,988	175.6	14.5
17	静岡	7,565	122,273	26,435,656	216.2	16.2
18	新潟	3,009	93,076	10,047,764	108.0	30.9
19	富山	896	34,946	2,773,056	79.4	39.0
20	石川	598	9,373	899,189	95.9	15.7
21	福井	764	14,728	909,215	61.7	19.3
22	岐阜	1,119	20,866	7,019,473	336.4	18.6
23	愛知	9,352	245,400	74,339,800	302.9	26.2
24	三重	1,972	126,288	16,247,248	128.7	64.0
25	滋賀	725	9,842	2,433,766	247.3	13.6
26	京都	1,147	23,337	2,848,982	122.1	20.3
27	大阪	1,642	44,747	5,027,543	112.4	27.3
28	兵庫	5,126	120,943	13,205,884	109.2	23.6
29	奈良	1,690	55,161	5,653,277	102.5	32.6
30	和歌山	5,635	110,538	14,161,830	128.1	19.6
31	鳥取	1,016	16,518	2,001,501	121.2	16.3
32	島根	2,018	19,096	1,872,977	98.1	9.5
33	岡山	2,115	43,307	4,845,058	111.9	20.5
34	広島	3,158	45,476	6,908,410	151.9	14.4
35	山口	1,211	17,572	2,602,210	148.1	14.5
36	徳島	3,706	48,041	10,979,657	228.5	13.0
37	香川	3,047	52,456	9,818,373	187.2	17.2
38	愛媛	2,118	37,460	3,876,016	103.5	17.7
39	高知	2,017	71,739	11,966,022	166.8	35.6
40	福岡	6,570	279,162	51,145,062	183.2	42.5
41	佐賀	720	17,515	3,441,396	196.5	24.3
42	長崎	1,370	36,789	5,263,353	143.1	26.9
43	熊本	2,998	92,887	11,185,359	120.4	31.0
44	大分	1,580	33,983	6,381,574	187.8	21.5
45	宮崎	1,297	64,141	11,083,673	172.8	49.5
46	鹿児島	5,181	204,860	22,485,209	109.8	39.5
47	沖縄	2,730	101,013	18,175,769	179.9	37.0
	全 国	140,196	3,690,537	579,728,110	157.1	26.3



第2図 花き栽培農家数の分布 (平成4年)



第3図 花き栽培面積の分布 (平成4年)



第4図 花き生産額の分布（平成4年）

3 花きの種類別生産状況

(1)種類別栽培面積

第2表は、花きの種類別栽培面積を都道府県別にまとめたものである。全国における花きの種類別栽培面積は、切花類(1,799,947 a)が最も広く、次いで花木類(1,510,840 a)、鉢ものの類(178,679 a)、球根類(150,250 a)、花壇用苗ものの類(50,821 a)の順である。

切花類の栽培面積が広い上位5県は、愛知県(139,067 a)、長野県(123,097 a)、静岡県(110,210 a)、沖縄県(90,773 a)、和歌山県(83,147 a)である。上位5県の栽培面積が全国に占める割合は30.4%、上位10県が占める割合は49.6%である。

鉢ものの類の栽培面積が広い上位5県は、愛知県(28,216 a)、埼玉県(24,643 a)、福岡県(9,201 a)、沖縄県(8,618 a)、千葉県(7,607 a)である。上位5県の栽培面積が全国に占める割合は43.8%、上位10県が占める割合は61.3%である。

花壇用苗ものの類の栽培面積が広い上位5県は、埼玉県(8,591 a)、兵庫県(4,000 a)、神奈川県

(3,342 a)、奈良県(3,281 a)、岐阜県(3,190 a)である。上位5県の栽培面積が全国に占める割合は44.1%、上位10県が占める割合は66.3%である。

花木類の栽培面積が広い上位5都県は、千葉県(331,090 a)、福岡県(201,506 a)、三重県(114,281 a)、東京都(109,294 a)、鹿児島県(95,712 a)である。上位5都県の栽培面積が全国に占める割合は56.4%、上位10都県が占める割合は78.9%である。

球根類の栽培面積が広い上位5道県は、新潟県(53,748 a)、富山県(28,597 a)、鹿児島県(24,949 a)、茨城県(6,950 a)、北海道(5,307 a)である。上位5道県の栽培面積が全国に占める割合は79.6%、上位10道県が占める割合は87.5%である。以上の結果、次の点が考えられる。

1. 切花類の栽培面積は、愛知県・長野県・静岡県など1960年代以降加速度的に生産量を伸した概成の大型生産地で特に広い。花木類の栽培面積は、千葉県・福岡県・三重県・東京都・鹿児島県・埼玉県・愛知県など日本の伝統的な植木生産地や

第2表 花きの種類別栽培面積（平成4年）

	都道府県	切花類(a)	鉢もの類(a)	花壇用苗もの類(a)	花木類(a)	球根類(a)	合計(a)
1	北海道	56,007	2,349	1,783	9,374	5,307	74,820
2	青森	12,137	1,253	419	3,342	113	17,264
3	岩手	50,734	797	1,711	2,801	789	56,832
4	宮城	17,721	1,363	690	10,858	10	30,642
5	秋田	13,622	500	429	5,735	1,806	22,092
6	山形	25,075	479	291	920	—	26,765
7	福島	61,909	2,290	248	7,810	2,170	74,427
8	茨城	50,970	5,397	1,187	11,991	6,950	76,495
9	栃木	18,831	4,867	721	34,351	—	58,770
10	群馬	32,856	5,712	847	6,623	1,284	47,322
11	埼玉	36,186	24,643	8,591	92,150	—	161,570
12	千葉	78,124	7,607	1,607	331,090	1,712	420,140
13	東京	54,832	4,885	1,681	109,294	2,007	172,699
14	神奈川	11,387	4,834	3,342	74,546	177	94,286
15	山梨	8,224	2,021	421	—	444	11,110
16	長野	123,097	4,433	58	2,320	1,789	131,697
17	静岡	110,210	6,404	1,065	2,983	1,611	122,273
18	新潟	21,063	338	90	17,837	53,748	93,076
19	富山	4,339	269	272	1,469	28,597	34,946
20	石川	8,648	321	232	162	10	9,373
21	福井	14,558	55	115	—	—	14,728
22	岐阜	8,675	6,407	3,190	2,524	70	20,866
23	愛知	139,067	28,216	2,959	74,859	299	245,400
24	三重	7,151	3,718	707	114,281	431	126,288
25	滋賀	7,400	1,566	85	791	—	9,842
26	京都	12,795	1,466	1,215	6,341	1,520	23,337
27	大阪	20,101	1,037	1,185	22,411	13	44,747
28	兵庫	49,550	2,183	4,000	63,940	1,270	120,943
29	奈良	33,333	2,573	3,281	13,200	2,774	55,161
30	和歌山	83,147	1,141	225	26,025	—	110,538
31	鳥取	7,888	398	205	6,696	1,331	16,518
32	島根	7,845	942	100	7,090	3,119	19,096
33	岡山	29,298	1,421	184	11,424	980	43,307
34	広島	25,363	1,772	411	17,781	149	45,476
35	山口	14,841	770	130	853	978	17,572
36	徳島	33,978	3,277	480	10,306	—	48,041
37	香川	30,359	3,659	60	18,378	—	52,456
38	愛媛	18,587	1,367	353	15,583	1,570	37,460
39	高知	64,697	1,702	426	4,914	—	71,739
40	福岡	65,287	9,201	3,168	201,506	73	279,162
41	佐賀	14,665	889	138	1,814	9	17,515
42	長崎	18,894	845	102	16,918	30	36,789
43	熊本	62,087	1,545	303	27,672	1,280	92,887
44	大分	27,530	1,769	460	4,213	11	33,983
45	宮崎	39,381	4,119	1,155	19,416	70	64,141
46	鹿児島	76,725	7,261	213	95,712	24,949	204,860
47	沖縄	90,773	8,618	286	536	800	101,013
	全 国	1,799,947	178,679	50,821	1,510,840	150,250	3,690,537

植木生産の盛んな都県で広く、花木類の栽培と植木生産とが密接に関係しているようである。また、球根類の栽培面積は、新潟県と富山県の両県でその約55%を占め、この2県に生産が著しく集中している。

2. 花きの種類別栽培面積の上位5県および上位10県の全国に占める割合は、切花類、鉢もの類、花壇用苗もの類、花木類、球根類の順で大きくなっている。したがって、切花類は全国で広く栽培されているのに対して、花木類や球根類は特定の都道府県で集中的に栽培されている。

(2)種類別栽培面積の構成比

第3表は、各都道府県について花きの種類別栽培面積の構成比をまとめたものである。全国における花きの種類別栽培面積の構成比は、切花が48.8%、花木類が40.9%、鉢もの類が4.8%、球根類が4.1%、花壇用苗もの類が1.4%である。この結果、全国の花き栽培は、総栽培面積の約90%が切花類と花木類の栽培で占められている。

切花類の栽培面積の構成比が高い上位5県は、福井県(98.8%)、山形県(93.7%)、長野県(93.5%)、石川県(92.3%)、高知県(90.2%)である。この上位5県は、長野県を除くと東北・北陸・四国地方に位置している。したがって、切花類の構成比が著しく高い県は、長野県を除いて花きの栽培面積が比較的狭く花き栽培の歴史が浅い生産活動の低迷している県のようなものである。

鉢もの類の栽培面積の構成比が高い上位5県は、岐阜県(30.7%)、山梨県(18.2%)、滋賀県(15.9%)、埼玉県(15.3%)、群馬県(12.1%)である。この上位5県は、その多くが関東地方と中部地方に位置している。

花壇用苗もの類の栽培面積の構成比が高い上位5府県は、岐阜県(15.3%)、奈良県(5.9%)、埼玉県(5.3%)、京都府(5.2%)、山梨県(3.8%)である。この上位5府県は、その多くが関東・中部・近畿地方に位置し、岐阜県は鉢もの類と花壇用苗もの類の両者の構成比が日本で最も高く、両者の生産が大変に盛んな県である。

花木類の栽培面積の構成比が高い上位5都県は、三重県(90.5%)、神奈川県(79.1%)、千葉県(78.8%)、福岡県(72.2%)、東京都(63.3%)である。この上位5都県は、その多くが関東・近

畿・九州地方に位置している。

球根類の栽培面積の構成比が高い上位3県は、富山県(81.8%)、新潟県(57.7%)、島根県(16.3%)である。富山・新潟の両県は、その構成比が他の都道府県と比較して極端に高く球根類の栽培に特化している。

(3)花き栽培の類型区分

花きの種類別栽培面積の構成比から、都道府県別の花き栽培の類型区分を試みた。各類型の名称と区分の基準は、A＝切花主型(切花の栽培面積の構成比が70%以上)、B＝切花主・花木従型(切花の栽培面積の構成比が60%以上で花木のその構成比が30%以下)、C＝切花・花木共存型(切花と花木の栽培面積の構成比が60%以上)、E＝球根主型(球根の栽培面積の構成比が60%以上)、F＝その他(上述の区分に該当しないもの)である。第3表は、都道府県別の花き栽培の類型をまとめたものであり、その分布を図示したものが第5図である。第5図によると、切花主型は、北海道・東北・中部地方で多く見られる。切花・花木共存型は中国・四国地方に集中し、花木主型は関東地方で多く見られる。そこで、47都道府県を地方ごとにまとめ、各地方と花き栽培の類型との関係を検討した。その結果は、次のとおりである。

北海道と東北地方は、典型的な切花主型の地域である。関東地方は、花木の栽培を中心とする花木主型と切花主・花木従型の2つの類型を主とする地域である。中部地方は、圧倒的に切花主型が多い地域であるが、球根類の割合が高い新潟県や鉢もの類の割合が高い岐阜県が「その他」に区分されている。近畿地方は、切花主型と切花・花木共存型の2つの類型を主とする地域である。中国地方は、瀬戸内海沿岸の2県が中国地方と同様に切花・花木共存型の地域であり、太平洋沿岸の2県が切花主型の地域である。九州地方は、切花主型と切花・花木共存型の2つの類型を主とする地域である。

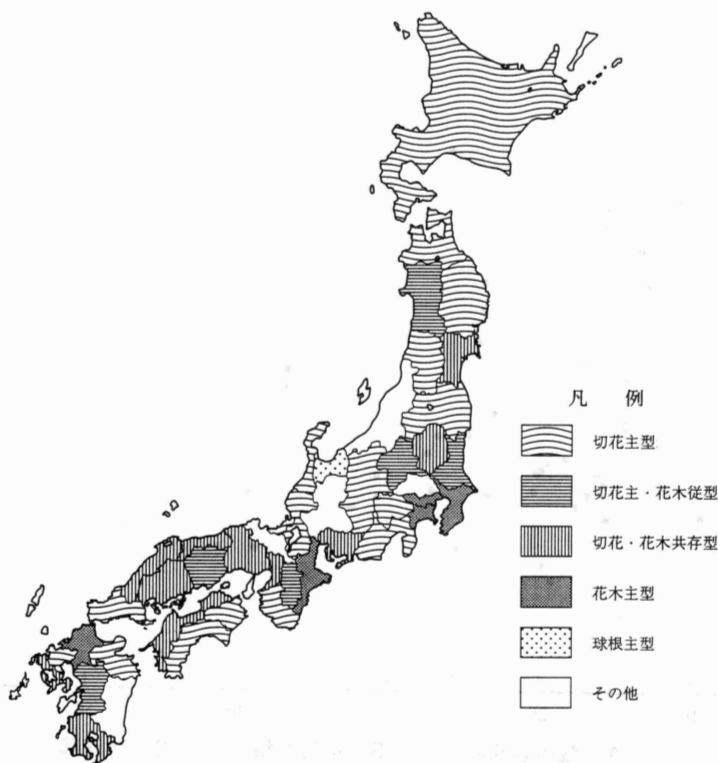
以上の結果、東北地方や北陸地方など稲作の盛んな地域で切花主型が多く、中国地方や四国地方など稲作と畑作の混合地域で切花・花木共存型が多くみられる。また、花木主型は関東地方に多く、更に三重県や福岡県など伝統的に植木生産が盛ん

第3表 花きの種類別栽培面積の構成比と類型区分（平成4年）

（単位：％）

	都道府県	切花類	鉢ものの類	花壇用苗ものの類	花木類	球根類	合計	類型区分
1	北海道	74.9	3.1	2.4	12.5	7.1	100.0	A
2	青森	70.3	7.3	2.4	19.4	0.7	100.1	A
3	岩手	89.3	1.4	3.0	4.9	1.4	100.0	A
4	宮城	57.8	4.4	2.3	35.4	0.0	99.9	C
5	秋田	61.7	2.3	1.9	26.0	8.2	100.1	B
6	山形	93.7	1.8	1.1	3.4	—	100.0	A
7	福島	83.2	3.1	0.3	10.5	2.9	100.0	A
8	茨城	66.6	7.1	1.6	15.7	9.1	100.1	B
9	栃木	32.0	8.3	1.2	58.4	—	99.9	C
10	群馬	69.4	12.1	1.8	14.0	2.7	100.0	B
11	埼玉	22.4	15.3	5.3	57.0	—	100.0	F
12	千葉	18.6	1.8	0.4	78.8	0.4	100.0	D
13	東京	31.8	2.8	1.0	63.3	1.2	100.1	D
14	神奈川	12.1	5.1	3.5	79.1	0.2	100.0	D
15	山梨	74.0	18.2	3.8	—	4.0	100.0	A
16	長野	93.5	3.4	0.0	1.8	1.4	100.1	A
17	静岡	90.1	5.2	0.9	2.4	1.3	99.9	A
18	新潟	22.6	0.4	0.1	19.2	57.7	100.0	F
19	富山	12.4	0.8	0.8	4.2	81.8	100.0	E
20	石川	92.3	3.4	2.5	1.7	0.1	100.0	A
21	福井	98.8	0.4	0.8	—	—	100.0	A
22	岐阜	41.6	30.7	15.3	12.1	0.3	100.0	F
23	愛知	56.7	11.5	1.2	30.5	0.1	100.0	C
24	三重	5.7	2.9	0.6	90.5	0.3	100.0	D
25	滋賀	75.2	15.9	0.9	8.0	—	100.0	A
26	京都	54.8	6.3	5.2	27.2	6.5	100.0	F
27	大阪	44.9	2.3	2.6	50.1	0.0	99.9	C
28	兵庫	41.0	1.8	3.3	52.9	1.1	100.1	C
29	奈良	60.4	4.7	5.9	23.9	5.0	99.9	B
30	和歌山	75.2	1.0	0.2	23.5	—	99.9	A
31	鳥取	47.8	2.4	1.2	40.5	8.1	100.0	C
32	島根	41.1	4.9	0.5	37.1	16.3	99.9	C
33	岡山	67.7	3.3	0.4	26.4	2.3	100.1	B
34	広島	55.8	3.9	0.9	39.1	0.3	100.0	C
35	山口	84.5	4.4	0.7	4.9	5.6	100.1	A
36	徳島	70.7	6.8	1.0	21.5	—	100.0	A
37	香川	57.9	7.0	0.1	35.0	—	100.0	C
38	愛媛	49.6	3.6	0.9	41.6	4.2	99.9	C
39	高知	90.2	2.4	0.6	6.8	—	100.0	A
40	福岡	23.4	3.3	1.1	72.2	0.0	100.0	D
41	佐賀	83.7	5.1	0.8	10.4	0.1	100.1	A
42	長崎	51.4	2.3	0.3	46.0	0.1	100.1	C
43	熊本	66.8	1.7	0.3	29.8	1.4	100.0	B
44	大分	81.0	5.2	1.4	12.4	0.0	100.0	A
45	宮崎	61.4	6.4	1.8	30.3	0.1	100.0	F
46	鹿児島	37.5	3.5	0.1	46.7	12.2	100.0	C
47	沖縄	89.9	8.5	0.3	0.5	0.8	100.0	A
	全 国	48.8	4.8	1.4	40.9	4.1	100.0	C

A＝切花主型 B＝切花主・花木従型 C＝切花・花木共存型 D＝花木主型 E＝球根主型 F＝その他



第5図 花き栽培の類型分布

な地域でみられる。

4 花き栽培における土地生産力と栽培規模

(1)都道府県別の土地生産力と栽培規模

都道府県別に花き栽培における土地生産力 C/B (B は栽培面積, C は生産額)と栽培規模 B/A (A は栽培農家数, B は栽培面積)を求めた(第1表)。 C/B が大きい上位5県は、岐阜県(336.4)、愛知県(302.9)、山梨県(275.0)、滋賀県(247.3)、群馬県(230.0)で、これらの県は花き栽培において土地生産力の高い県である。 B/A が大きい上位5都県は、三重県(64.0)、茨城県(49.6)、宮崎県(49.5)、福岡県(42.5)、東京都(41.5)で、これらの都県は花き栽培において栽培規模の大きい都県である。

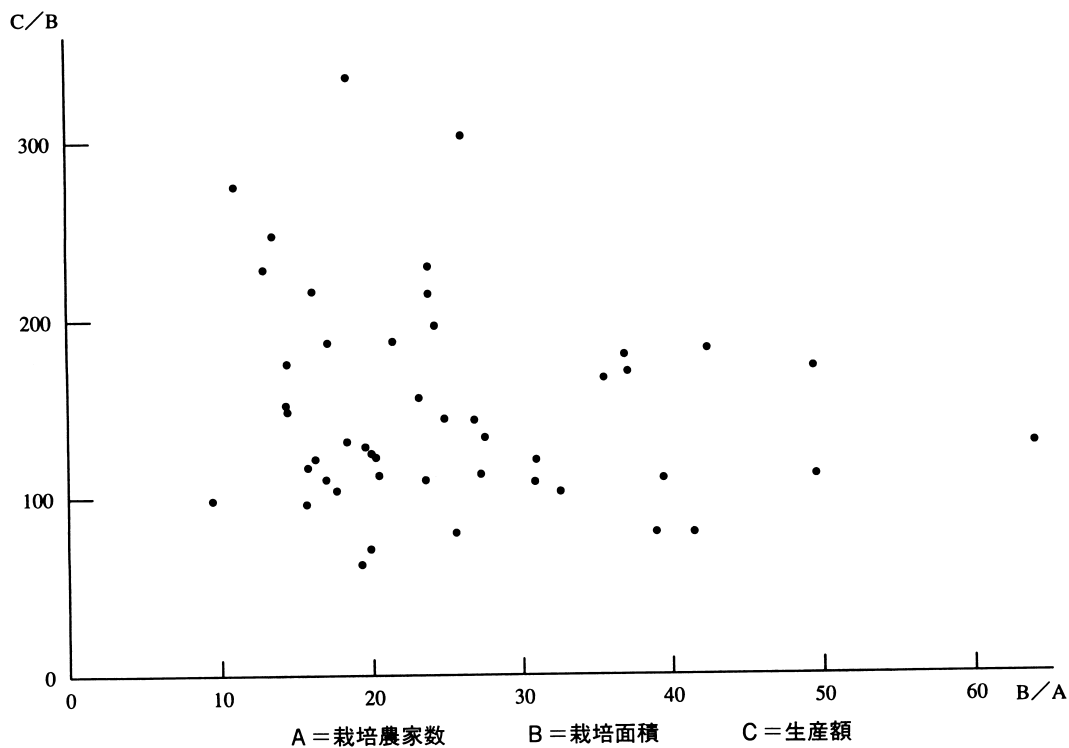
第6図は、47都道府県の C/B と B/A との関係を示したものである。この図によると、大雑把にみて B/A が大きくなると C/B が小さくなる傾向がみられ、花き栽培における土地生産力は栽培規模が大きくなると低下するようである。

(2)類型別の土地生産力と栽培規模との関係

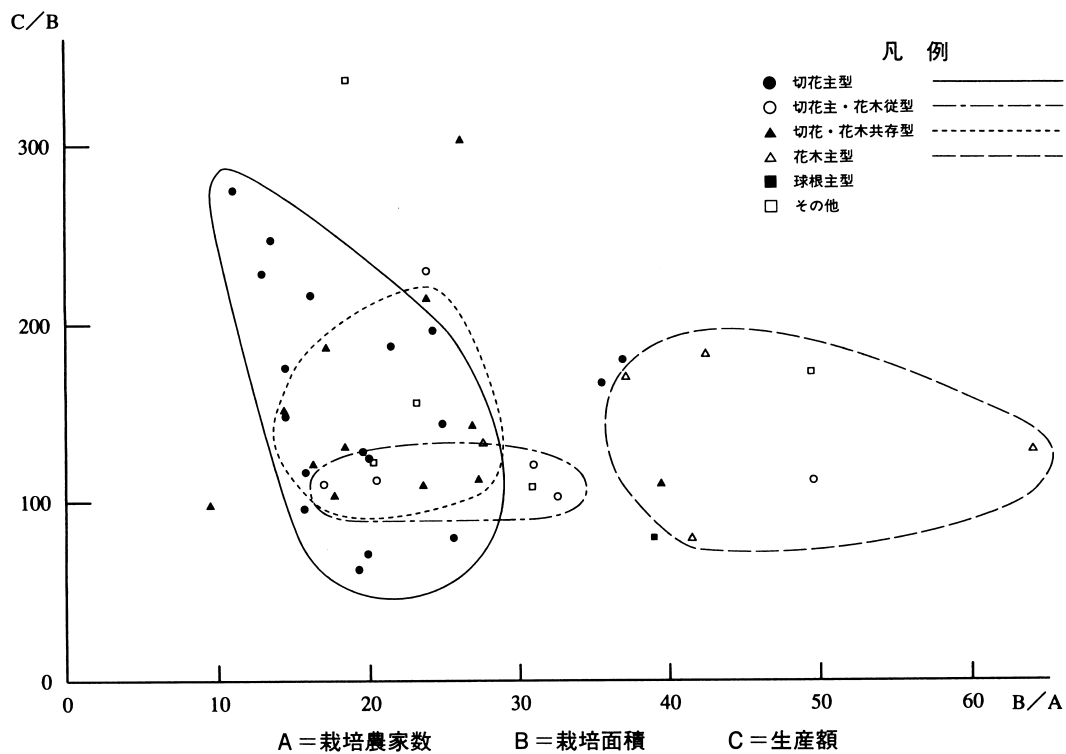
第7図は、47都道府県の花き栽培の類型を各類型ごとにまとめ、土地生産力 C/B と栽培規模 B/A との関係を示したものである。類型別の C/B と B/A との関係は、次のようである。

花木主型は、 B/A が全類型のなかで極端に大きく、 B/A の同類型内における都道府県間の差も著しく大きい。しかし、 C/B は、全類型のほぼ平均的な位置にある。したがって、花木主型の花き栽培地域は、栽培規模が他の類型よりも極端に大きく、栽培規模の同類型内における地域差も著しく大きい。また、土地生産力は、全類型のほぼ平均的な位置にあるものと考えられる。

切花主型は、 C/B の同類型内における都道府県間の差が著しく大きく、 B/A が大きくなると C/B が小さくなる傾向がみられ、 B/A の同類型内における都道府県間の差も顕著である。したがって、切花主型の花き栽培地域は、土地生産力と栽培規模の同類型内における地域差が大きく、栽培規模が大きくなると土地生産力が低下する傾向が顕著



第6図 土地生産力 (C/B) と生産規模 (B/A) との関係



第7図 類型別の土地生産力 (C/B) と生産規模 (B/A) との関係

であるものと考えられる。

切花主・花木従型は、 C/B が全類型の平均的な位置よりも若干小さく、 C/B の同類型内における都道府県間の差も小さい。 B/A は全類型のほぼ平均的な位置にあり、 B/A の同類型内における都道府県間の差が大きい。したがって、切花主・花木従型の花き栽培地域は、土地生産力が若干小さく、土地生産力の同類型内における地域差も小さい。また、栽培規模は、全類型のほぼ平均的な位置にあり、同類型内における地域差が大きいものと考えられる。

切花・花木共存型は、 C/B と B/A が全類型のほぼ平均的な位置にあり、両者の同類型内における都道府県間の差もほぼ同程度である。したがって、切花・花木共存型の花き栽培地域は、土地生産力と栽培規模が全類型のほぼ平均的な位置にあるものと考えられる。

球根主型は、 C/B が全類型の平均的な位置よりも小さく、 B/A が全類型の平均的な位置よりも若干大きい。したがって、球根主型の花き栽培地域は、栽培規模が大きく、土地生産力が小さいもの

のと考えられる。

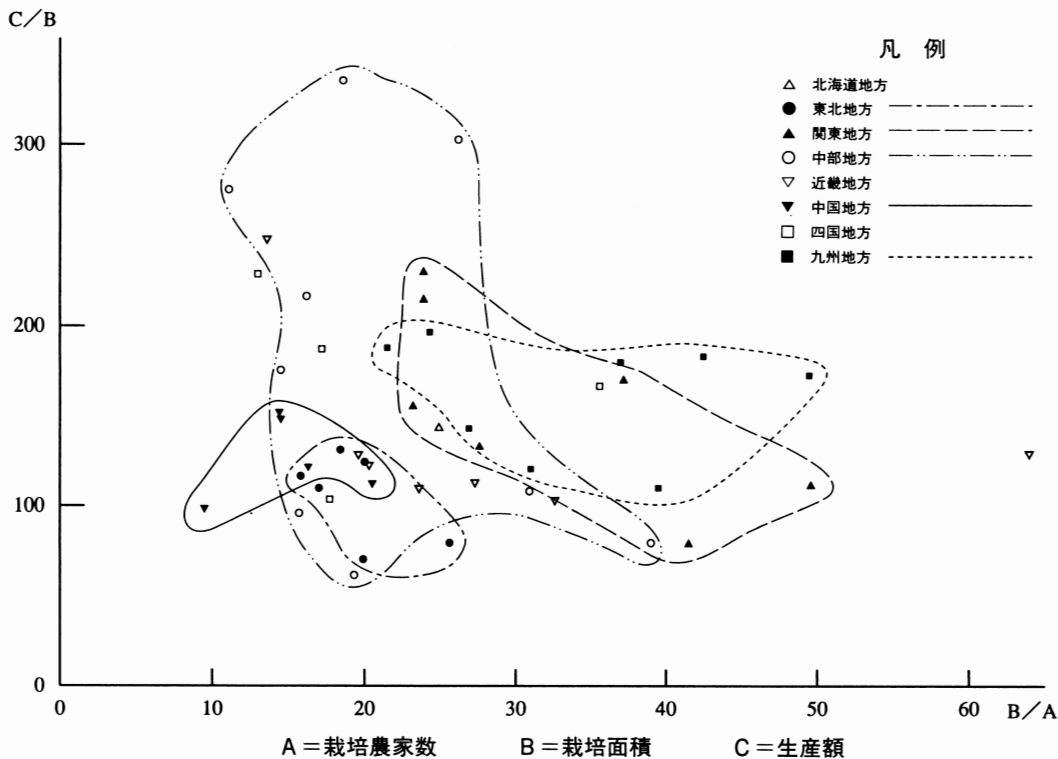
(3) 地方別の土地生産力と栽培規模との関係

第8図は、47都道府県を各地方ごとにまとめ、土地生産力 C/B と栽培規模 B/A との関係を示したものである。地方別の C/B と B/A との関係は、次のようである。

北海道は、 C/B と B/A が日本の平均的な位置よりも若干小さいが、東北地方と比較すると C/B が東北地方よりも大きい。したがって、北海道の花き栽培は、土地生産力と栽培規模が日本の平均的な位置よりも若干小さいが、東北地方よりも土地生産力が大きく、栽培規模もわずかに大きいものと考えられる。

東北地方は C/B と B/A の両者が著しく小さく、 C/B と B/A の地方内における都道府県間の差も極めて小さい。したがって、東北地方の花き栽培は、それほど活発ではなく土地生産力と栽培規模の地方内における地域差も著しく小さいものと考えられる。

関東地方は B/A が大きく、 B/A の地方内における都道府県間の差も著しく大きい。また、 C/B



第8図 地方別の土地生産力（ C/B ）と生産規模（ B/A ）との関係

は日本のほぼ平均的な位置にあり、C/Bの地方内における都道府県間の差が比較的顕著である。したがって、関東地方の花き栽培は栽培規模が若干大きく、土地生産力が日本のほぼ平均的な位置にあり、栽培規模の地方内における地域差も大きいものと考えられる。

中部地方は、B/Aが日本の平均的な位置よりも若干小さく、B/Aの地方内における都道府県間の差が比較的に小さい。しかし、C/Bは日本の平均的な位置よりも大きく、地方内における都道府県間の差が極端に大きい。したがって、中部地方の花き栽培は、栽培規模が日本の平均的な位置よりも若干小さいが、土地生産力が大きく地方内における地域差が著しく大きいものと考えられる。

近畿地方は、C/Bが日本のほぼ平均的な位置にあり、B/Aの地方内における都道府県間の差が著しく大きい。したがって、近畿地方の花き栽培は、土地生産力が日本の平均的な位置にあり、栽培規模の地方内における地域差が著しく大きいものと考えられる。

中国地方は、B/AとC/Bの両者が小さく、B/AとC/Bの地方内における都道府県間の差も著しく小さい。したがって、中国地方の花き栽培は、東北地方と同様にそれほど活発でないと考えられるが、土地生産力は東北地方よりも若干大きいものと考えられる。

四国地方は、B/AとC/Bの両者が日本のほぼ平均的な位置にあり、C/BとB/Aの地方内における都道府県間の差が比較的に大きい。したがって、四国地方の花き栽培は、土地生産力と栽培規模が日本の平均的な位置にあり、土地生産力と栽培規模の地方内における地域差が比較的に大きいものと考えられる。

九州地方はB/Aが大きく、B/Aの地方内における都道府県間の差が著しく大きい。またC/Bは日本のほぼ平均的な位置にあり、C/Bの地方内における都道府県間の差が小さい。したがって、九州地方の花き栽培は栽培規模が大きく、しかも地方内における地域差が著しく大きい。また、土地生産力は、日本のほぼ平均的な位置にあり、地方内における地域差が小さいものと考えられる。

5 おわりに

本稿では、日本における花き栽培の現状を都道府県単位で検討し、花き栽培の類型区分と地域特性、さらに類型区分と経営構造との関係の概要を明らかにした。今後は、日本における花き栽培のより詳細な分析と類型別個別地域の実態研究を進めたいと考えている。

注

- 1) 花きは、観賞の対象となる栽培植物のことで、切花類、鉢ものの類、花壇用苗ものの類、花木類、球根類、芝・地被植物類に区分される。
- 2) 本稿の栽培農家数・栽培面積・生産額は、芝・地被植物類の資料を含んでいない。

文 献

- 長岡 顕ほか (1978) : 「日本農業の地域構造」, 大明堂, 259 P.
- 農業地域システム研究会 (1991) : 「日本の農業地域システム」, 大明堂, 238 P.
- 花き産業研究会 (1991) : 「日本の花き産業」, 地球社, 277 P.
- 阿部定夫ほか (1979) : 「花卉園芸学」, 朝倉書店, 241 P.
- 緑化研究会 (1984) : 「日本の植木生産地域」, 古今書院, 371 P.